

<白金標準、4400 円の攻防から需給の見直し相場へ・・・>



(出所：オアシス)

脱コロナから中国経済は世界市場から回復力を強めて来るとの期待感を持って対応して来たが、先週に発表された中国貿易指標の悪化から景気停滞懸念が強まり、工業用途需要の割合が高いプラチナやパラジウムは売られている。

しかし 330 億ドルの運用実績を持つ南アフリカ最大資産運用会社コロネーション・リソース・ファンドは、南アフリカの電力不足を受けた発電施設の設備投資でコスト高に喘ぐインパラ・プラチナムやアングロ・アメリカの鉱山株を売却し、今後 3 ヶ月から半年でコスト高に伴うプラチナ価格の上昇を狙って現物を購入している。

運用担当者は「プラチナ価格は、供給が厳しくなるにつれて、他の 2 つの PGM 金属よりも良くなると予想される」と述べ、今年の供給不足を示唆している。

また大阪取引所の海外投資家の取り組みでも 4000 枚の買い越しであり、コメックスのプラチナ先物・オプションのネットロングは先週から 21%減少したが 27.3 トンを維持するなど、強気の見方には変化はない。そのため白金標準先物でも 4400 円以下では下げ渋る展開が予想され、強気を維持するのが妥当と思える。

<テクニカル>

白金標準先物の日足を MACD と RCI で見た場合は、MACD では **MACD** が下げ渋り、**シグナル** も下げ渋りながら乖離が縮小している。RCI では**短期**が上昇し、**長期**は切り下げるなど大勢感では下げ過ぎの域まで届いており、転換を待つのが妥当と思えます。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引1,975,000円(2023年6月12日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約10倍から70倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚あたり往復40,700円(2023年6月12日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当日本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話03-5540-8423(受付時間:平日8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>